

全会津中体連総合大会に係る新型コロナ感染症対策

全会津中体連バスケットボール専門部

1 選手・顧問・大会関係者・役員の感染対策

- 選手は大会参加に関して同意書を必ず提出する。
- 朝自宅にて検温を実施する。(37.5度以上あった場合は自宅待機とする)
- 会場入場時に検温を行う。(37.5度以上あった場合は再検温し帰宅する。)
- マスクの着用やソーシャルディスタンス確保の徹底、基本的な衛生エチケットを遵守することとし、競技中以外は必ずマスク等を着用する。
- 試合前後または試合中に、握手、ハイタッチ等の接触は避ける。
- 関係者の来場は必要最小限とする。

2 会場等における感染対策

- 会場入口にアルコール消毒液を設置する。
- 試合と試合の間にアルコール消毒をする。(ベンチ・TOなど)
- 全てのドア及び窓を開け、「三密」を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- コートへの選手の出入り口を分け、入り口付近での密を避ける。。
- ドリンクの共有はしない。
- ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。
- 座席を設置する際は、前後左右に間隔をあけ、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- 手指消毒液など、試合や練習では広く使用できるように準備し、参加者、選手、コーチ、審判は頻繁に手洗いを実施する。
- 用具や器具、その他の備品も頻繁に消毒するよう心掛ける。

3 試合運営における感染症対策

- 無観客試合とする。
- 各チーム来場する選手の2週間分の体調チェックシートを大会本部へ提出する。
- 健康チェックシートを代表者が保管する。(2週間を目安とする。)
- 試合間隔は、1時間30分とし、試合と試合の間の消毒作業の時間を確保する。
- コートへ入る選手の人数を制限するため、ハーフタイムのウォーミングアップは実施しない。
- 試合時間の超過した場合、試合開始予定時間を繰り下げ、消毒作業と試合前のウォーミングアップの時間を確保する。
- 試合中、試合間ともにドアや窓は開放し、換気が十分に行なわれるようにする。
- 試合終了後は、消毒作業が終了した時点で次チームが入場する。
- ギャラリーは、ソーシャルディスタンスを確保し利用する。
- 試合終了後、T・O終了後はすぐに退館する。
- 大会開催期間中または、終了後に体調不良があった場合は学校を通じて事務局に速やかに報告する。